豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	工業力学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	13125	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科	対象学年	3		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	「詳解 工業力学」入江敏博 著 (理工学社)				
担当教員	林 伸和				
到達目標					
<p>(ア)剛体の平面運動は並進運動と回転運動を合成して得られることが理解できる。</p> <p>(イ)剛体の回転運動の運動方程式を理解し、慣性モーメント、トルクから回転体の運動方程式を解くことができる。</p> <p>(ウ)平行軸の定理および直交軸の定理を用いて、簡単な形状を持つ物体の慣性モーメントが計算できる。</p> <p>(エ)剛体の平面運動を重心の並進運動と重心まわりの回転運動に分け、両者を連立させて問題を解くことができる。</p> <p>(オ)摩擦に関するクーロンの法則が理解でき、摩擦係数、摩擦角、摩擦が存在する場合の物体と斜面に働く力が計算できる。</p> <p>(カ)仕事、エネルギーとはどのような物理量であるのかが理解でき、種々の場合について値を求めることができる。</p> <p>(キ)エネルギー保存の法則が理解でき、それを利用していくつかの場合について物体の運動を説明することができる。</p> <p>(ク)動力、回転機械の動力の概念が理解でき、具体的に計算できる。てこ、滑車が理解でき、問題を解くことができる。</p> <p>(ケ)運動量と力積の関係から衝撃力が計算できる。運動量保存の法則から2つの物体の衝突問題を解くことができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	剛体の平面運動、回転運動が理解できる。	剛体の平面運動、回転運動の基礎が理解できる。	剛体の平面運動、回転運動の基礎が理解できない。		
	摩擦、仕事、エネルギーの概念が理解できる。	摩擦、仕事、エネルギーの基礎的な概念が理解できる。	剛体の平面運動、回転運動の基礎が理解できない。		
	エネルギー保存、動力、運動量の概念が理解できる。	エネルギー保存、動力、運動量の基本的概念が理解できる。	エネルギー保存、動力、運動量の基本的概念が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	工業力学は、物理、応用物理で学ぶ力学系の問題の中で、特に工学に関心のある者に興味を持って取り組めるように、日常身近に経験する実際の例題を数多くとりあげた力学系基礎専門科目である。「工業力学Ⅰ」に引き続き、ここでは剛体の運動、摩擦、仕事とエネルギー、動力、運動量と力積、衝突などの項目について学ぶ。なるべく多くの演習問題を解き、実際に計算することによって、理解が深まるように努める。				
授業の進め方・方法					
注意点	工業力学Ⅰを修得していることを前提として授業を進める。関数電卓を毎授業持参すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	剛体の平面運動：並進運動、回転運動	剛体の平面運動は並進運動と回転運動を合成して得られることが理解できる。		
	2週	剛体の固定軸まわりの回転運動：慣性モーメント、角速度、角加速度	剛体の回転運動の運動方程式を理解し、慣性モーメント、トルクから回転体の運動方程式を解くことができる。		
	3週	剛体の固定軸まわりの回転運動：慣性モーメント、角速度、角加速度	剛体の回転運動の運動方程式を理解し、慣性モーメント、トルクから回転体の運動方程式を解くことができる。		
	4週	慣性モーメントに関する定理：平行軸の定理、直交軸の定理	平行軸の定理および直交軸の定理を用いて、簡単な形状を持つ物体の慣性モーメントが計算できる。		
	5週	剛体の平面運動の方程式：重心の並進運動、重心まわりの回転運動	剛体の平面運動を重心の並進運動と重心まわりの回転運動に分け、両者を連立させて問題を解くことができる。		
	6週	剛体の平面運動の方程式：重心の並進運動、重心まわりの回転運動	剛体の平面運動を重心の並進運動と重心まわりの回転運動に分け、両者を連立させて問題を解くことができる。		
	7週	摩擦の法則：クーロンの法則、摩擦係数、摩擦角	摩擦に関するクーロンの法則が理解でき、摩擦係数、摩擦角、摩擦が存在する場合の物体と斜面に働く力が計算できる。		
	8週	斜面の摩擦と応用：斜面上の物体に働く力	摩擦に関するクーロンの法則が理解でき、摩擦係数、摩擦角、摩擦が存在する場合の物体と斜面に働く力が計算できる。		
	9週	仕事とエネルギー：仕事の定義、回転体の仕事	仕事、エネルギーとはどのような物理量であるのかが理解でき、種々の場合について値を求めることができる。		
	10週	エネルギー保存の法則：力学エネルギー、運動エネルギー、位置エネルギー	エネルギー保存の法則が理解でき、それを利用していくつかの場合について物体の運動を説明することができる。		
	11週	エネルギー保存の法則：力学エネルギー、運動エネルギー、位置エネルギー	エネルギー保存の法則が理解でき、それを利用していくつかの場合について物体の運動を説明することができる。		
	12週	動力：回転機械の動力、てこ、滑車	動力、回転機械の動力の概念が理解でき、具体的に計算できる。てこ、滑車が理解でき、問題を解くことができる。		
	13週	運動量と力積：運動量保存の法則、衝突	動力、回転機械の動力の概念が理解でき、具体的に計算できる。てこ、滑車が理解でき、問題を解くことができる。		

		14週	運動量と力積：運動量保存の法則、衝突	運動量と力積の関係から衝撃力が計算できる。運動量保存の法則から2つの物体の衝突問題を解くことができる。	
		15週	まとめ	学習した内容に関する問題を解くことができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合		30	50	20	100
専門的能力		30	50	20	100